

2005.11.13

No.5

こあじ冊子

～ Little Tern Project ボランティア通信 ～

TOPIC

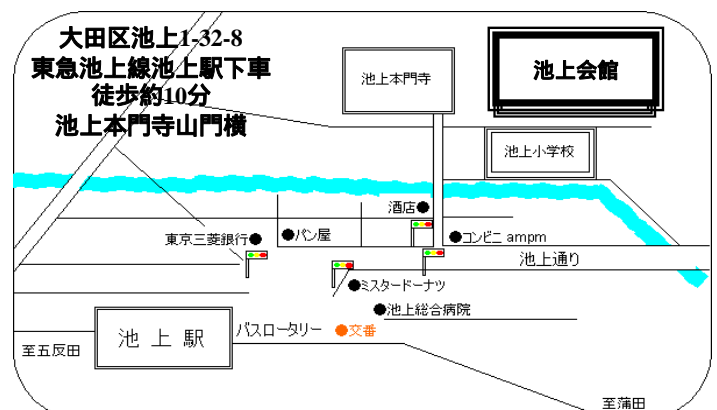
報告会開催のお知らせ
2005年度のコアジサシ営巣状況
2005年度の営巣地保護整備活動の成果報告
スタッフ紹介
コアジサシコラム



報告会開催のお知らせ

報告会 『下水道局森ヶ崎水再生センターにおけるコアジサシ屋上営巣の試み』

- 日時:12月3日(土)13:30～15:30
- 場所:大田区立池上会館(右下の地図参照)
- 内容:
2001年、下水道局森ヶ崎水再生センター屋上でコアジサシの営巣が発見されてからこれまで5年間の、営巣地の整備状況と営巣結果、保護活動の成果などについて。
- 講演者:
リトルターン・プロジェクトスタッフ
森ヶ崎水再生センター職員
- 対象者:一般
- **応募締切:先着150名**
- 応募方法:当日、直接会場へお越し下さい。
- 参加費:無料
- 主催:リトルターン・プロジェクト
- 共催:大田区
- 協力:下水道局森ヶ崎水再生センター
- 問合せ先:大田区役所環境保全課 環境対策担当
- 電話:03-5744-1365
- Fax :03-5744-1532



(<http://www015.upp.so-net.ne.jp/gam/MAP-ikegamikaikan.htm>より引用)

2005年度のコアジサシ営巣状況

1~4月 コアジサシ飛来に向けての準備開始!

2005年1月、草原化の原因である素材スラッジライトを屋上から撤去する作業が始まりました。そこに新しくコンクリがらを敷きならし、さらに未整備部分には天然砂利を敷き、営巣地全体が6.2ヘクタールに拡張されました。2002年以来の大整備も好天に恵まれ、約300名のボランティアさんの参加により、4月初旬にはすべて終了しました。

5月 誘致大作戦!

コアジサシの誘致大作戦は、デコイ(木彫りのコアジサシの模型)の数を増やし、さらに全天候型スピーカーで鳴き声を流すという案が浮上。デコイ280個はバードカービングの草分け、内山春雄さんが指導し、千葉の我孫子中学校の生徒に作ってもらったもので、望遠鏡で見ると本物と間違えるほどの出来栄でした。



こんなに大きなスピーカーを設置



営巣記念日
なんとデコイの脇に卵が!!

5月9日には最大で約80羽がデコイ周辺に舞い降りました。16日、約500羽のコアジサシが屋上営巣地をねぐらにしていました。コアジサシはねぐらを転々と変えるらしく、この群れがこのまま残ってくれればと願っていました。今年の営巣記念日(初めて営巣が見つかった日)は5月22日。3巣が見つかりました。5月の終わりになると約400羽のコアジサシが次々に営巣を始めました。

6~7月 捕食者により壊滅状態、そして...

6月中旬頃からカラスやチョウゲンボウ(タカの仲間)に襲撃されることが多くなり、一時は壊滅状態。万全の対策をとったはずの猫までが侵入していることがわかり、このままでは今年の巣立ちはないのでは、ととても心配になりました。

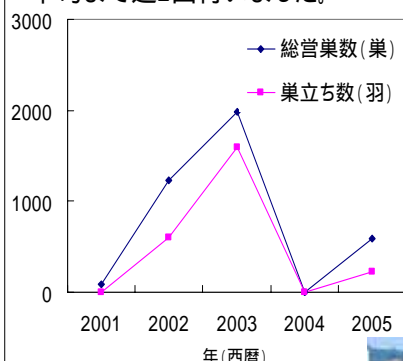
しかし、7月に入ると他の営巣地で営巣に失敗したと思われるコアジサシが入れかわるようになってきて営巣を始め、500羽ほどのコアジサシが飛来し、営巣地は賑わいを取り戻しました。



卵と孵化したばかりのヒナ

5~8月 営巣調査

6.2ヘクタールもの営巣調査はとても大変です。そこで今年は、営巣地の一部を調査することとなりました。調査の所要時間は平均4時間。長いときには7時間かかることもありました。調査は、コアジサシがいなくなる8月の中旬まで週2回行いました。



今シーズンの推定総営巣数は、536巣。終盤、チョウゲンボウのつこい攻撃に遭い、推定巣立ち数は229羽という結果になりました。(N.M.)



巣の数やヒナの数調べているところ

今年の営巣調査では、リーダーとして調査に参加しました。炎天下での長時間の調査は厳しいものですが、卵やヒナを発見すると、調査者全員がほろほろび、その瞬間、疲れなど吹き飛んでしまいます。私は二〇〇三年、今年と調査に参加しましたが、調査がどんなに大変でも、「もうやりたくない」と思ったことは一度もありません。それくらい「コアジサシに惚れ込んでいます」。

副代表の柴田英美です。私は現在明治大学の大学院生です。大学三年より、生きものを保全するための研究を行っています。二〇〇二年秋に、研究室の指導教授、倉本先生(TPP顧問)の助手として営巣地に初めて訪れました。コアジサシは渡りの最中で営巣地にはいませんでしたが、私はお話を写真だけでコアジサシに魅了されてしまいました。以来、TPPのスタッフとして営巣調査やボランティア通信編集などに関わっています。



2005年度の営巣地保護整備活動の成果報告

1、2005年春の整備で行ったこと

1羽の雛も巣立たなかった2004年の繁殖シーズン。そのシーズンオフはコアジサシがやってこなかった原因を解明することに費やされました。

考えられた大きな要因は2つ、春に行われた草むしりの甲斐なく大量に繁茂してしまった雑草と、大群で襲来し雛や卵を襲ったカラスの存在でした。これらの2つの重点項目を含めて、2005年の3月に主に次の5つの整備作業をボランティアの皆様と行いました(詳細は前号を参照)。

雑草対策 (ビニールを敷いて草の発生を抑制)

カラス除け設置 (カラスがとまれないように塀に糸を張る)

溝対策 (雛が落ちないように溝の前にブロックを設置)

シェルター設置 (新しくパイプ状のシェルターを設置)

区画のナンバリング (区画ごとにレンガに番号をつける)

2、2005年のシーズンを終えて

3月に整備を終えた後、4月には営巣地に飛来するコアジサシの姿が見られ始め、その後、ついに営巣を始めるコアジサシが現れました！コアジサシが再び営巣地に戻ってきてくれたのです。全体として営巣地の整備は成功だったと考えられ、ホッと胸をなでおろしました。

しかし、細かな部分では行った整備作業に十分とはいえないこともあり、来年のシーズンへ向けてそれぞれについて反省していく必要があります。

雑草対策 雑草対策用ビニールを突き破って草が出現してしまいました(写真)。しかし厚いビニールを利用すれば、同様の方法で草を完全に防ぐことができそうです。



カラス除け設置 カラスが設置した糸の間を縫うように、塀にとまっている姿が見られ、完全にカラスを追い出すにはいたらなかったようです。しかし、調査員によると、感覚的にはやってくるカラスの数が減っているそう



です。それよりも問題になったのがカラス以外の捕食者による被害で、チョウゲンボウによる大量の雛の捕食や猫による被害もあったようです。

溝対策 設置したブロックを雛が超えることはなく、溝の中に落ちてしまう事態は起こりませんでした。

シェルター設置 雛がシェルターの中に入り、利用している姿が観察されました(写真)。今後は設置数などを検討する予定です。

区画のナンバリング レンガのナンバーは、調査や観察会の時に位置を把握するのに非常に役立ちました。

3、2006年へ向けて

こうした今年の反省を踏まえて、現在はスタッフで来年へ向けてどのような整備を行っていくか、その対策を話し合っています。現在の段階で来年度の整備に大きく取り扱う予定の項目は、やはり捕食者対策と雑草問題の2つです。

捕食者対策としては、今まで行ってきたカラスに向けての対策を強化していく一方で、チョウゲンボウなどの新たな問題へどのように取り組んでいくかが課題です。雑草対策はかなり複雑な問題を含んでいます。去年のように草が大量に生えてしまうとコアジサシはやってきません。しかし一方で、多少の草が生えていた方がコアジサシの雛にとっても、直射日光や捕食者から身を守る為にはちょうどよいのではないかという意見も出ています。草がどの程度営巣地に必要かも含め、来年は草に対して対策を行うか行わないかといった議論が行われています。

これらの問題に関してはスタッフも手探りで対策を探しているのが現状です。もし皆様の中に良いアイデアをお持ちの方がいましたら、是非スタッフまでご一報ください!! (W.K.)

今年は営巣調査に参加でき、調査のたびに巣の数が増えていくのが楽しみでした。六月中旬の調査で、モノレール側区画の卵がほとんどなくなり、親鳥も少なくなりましたが、今年の営巣は終わりにかと思いましたが、その後運河側区画で営巣が増え、営巣地を拡大した効果かと思っています。

環境学習部会の田中輝明です。昨年四月に異動して、現在は大田区保健所で環境衛生の仕事をしています。異動前の環境保全課での海域調査の際、城南大橋付近でたくさんのコアジサシを見ることができましたが、年々その数が減少していくのが気になっていました。内川の暗渠化や河口の埋め立て問題以来の長い付き合いの増田さんから、屋上営巣の話聞き、保全活動に参加するようになりました。

今回は、今年の営巣調査に参加したスタッフ2名をご紹介します。ほぼ皆勤賞だった田中輝明さん(写真:一番左)、調査リーダーの柴田英美さん(写真:一番右)です。 By N.M.



スタッフ紹介



第3回 『コアジサシはどこへ行くのか 渡り経路の2つの可能性』

今年もまた秋になり、北半球で繁殖のために夏を過ごしたコアジサシ達が、遠く離れた南半球の越冬地へと旅立ってゆきました。繁殖地から越冬地へ、また、越冬地から繁殖地へと、毎年春と秋に繰り返されるこの移動は渡りと呼ばれ、コアジサシのように渡りをおこなう鳥類を渡り鳥といえます。渡り鳥はたいてい数百キロから数千キロもの長距離を移動するので、特別な例を除いてその正確な移動経路はあまり明らかになっていません。特別な例というのは、人工衛星を用いた移動個体の追跡ですが、技術的・金銭的な問題で、まだどの鳥にでも使うことのできる技術ではありません。渡り鳥のおおまかな渡り経路を知る方法として、古くから足環標識が行われてきました。これは標識番号が刻印された金属製の足環や色足環を個体に装着して個体を識別する方法で、個体が再発見された地点を線で結んで移動経路を推測します。この手法の問題点は再発見率の低さですが、たくさんの個体に標識をつけることで再発見例を増やすことができます。多くの渡り鳥を含むシギ・チドリ類では、複数の国家間で協定を結んでフラッグ(図1)標識を行うことで渡り経路の解明が進んでおり、これまでに太平洋西岸だけでもいくつかの渡り経路があることがわかっています(図2)。これらの経路のうち、どの経路を通して東アジアのコアジサシは繁殖地(日・中・韓～台湾)と越冬地(ニューギニア～ニュージーランド)の間を渡っているのでしょうか？

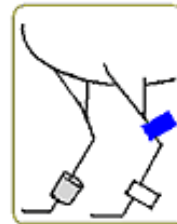
考えられる経路には 西日本から沖縄・台湾・フィリピンを通過していく経路、東日本から伊豆・小笠原諸島を通過していく経路の2つがあります。距離では経路が最短ルートですが、いくつかの要素から、現在は経路が有力なように思われます。経路 上には、コアジサシが渡りの中継地として利用可能な砂浜や干潟が多くあり、台湾でもコアジサシが繁殖していますが、経路 上には砂浜や干潟はあまりなく、この地域では年間を通じてコアジサシがあまり観察されていないのです。

今後、広い地域でコアジサシの季節的な個体数の増減を明らかにすることができれば(例えば秋には沖縄で一時的にたくさん見られるなど)、2つの渡り経路のどちらを利用しているのかわかるかもしれません。もしかしたらどちらも使っていたりして…。(S.S.)



森ヶ崎では…

- **2002年10月28日**に、ニュージーランドより足環の観察データが送られてきました。足環番号より、森が崎水処理センター(現在の森ヶ崎水再生センター)屋上で2002年6月29日に放鳥したものであることが分かりました。
- **2004年度**、森ヶ崎では1羽も巣立ちませんでしたが、千葉県浦安市において、2002年に屋上営巣地から巣立った幼鳥がペアで営巣、子育てしていることが足環によって確認されました。このペアのヒナは7月20日に無事巣立ったことが確認されています。



小櫃川
千葉県木更津市



谷津干潟
千葉県習志野市

図1:鳥の脚に装着されたフラッグ。
右足首は金属製の標識足環。
(<http://www.yamashina.or.jp/toppage.html>より引用)



図2:西太平洋の渡り鳥の主要な渡り経路
(<http://www.tasweb.com.au/awsg/>より引用)

お問合せ先

住所:〒143-0015 東京都大田区大森西5-10-22増田方 リトルターン・プロジェクト

E-mail: littletern_pj@hotmail.com

Tel: 080-1173-7534 (受付時間…10:00~20:00)

HP-URL <http://www.metro-npo.net/littletern/>

発行 リトルターン・プロジェクト

編集 柴田英美

イラスト・写真撮影 増田直也・大塚豊・伊東真寿美ほか